吉田有理 福島民報 連載コラム

圏外のアンテナ

[君の名は。]の巻

「君の名は。」というアニメ映画がヒットしている。

話題の「シン・ゴジラ」を抑えて、興行収入も100億円の大台に乗ったという。

だがわたしは、ちょっと白けて、眺めていた。

予告編を見ると、ストーリーは、男女の高校生の中身が入れ替わる、80年代の名作「転校生」に似ている。その上、タイトルは、往年のラジオドラマのパクリじゃないか。パクリとパクチーが大嫌いなわたしは、またまた、皆が「未熟」と「新鮮」を取り違えて、騒いでいるだけじゃないの? と、うんざりしていた。

ある日、打合せ中に、映画の話になった。思うところがあったので、「最近、皆、コピペに頼り過ぎ。オリンピックのエンブレム騒動が、いい例よ。耳触りのいい、昔のタイトルを引っぱり出してきて、パクるなんて、嘆かわしい……」と、思いをぶちまけた。そうそうと、うなずく、仕事仲間たち。

だが、26才のMちゃんは違った。「わたし、明日見にいく予定なのに。つまらない映画なんですか?」と、喰らい付いてきた。そしてこう続けたのである。

「日本には、本歌取りという伝統があります。「風立ちぬ」というアニメもそうでしたけど、 テーマが被るなら、あえて、昔のタイトルをつけるという手法はアリだと思います」

本歌取り?そう来たか。「風立ちぬ」?いや、見ていない。

ふーん。Mちゃんに、一本取られたかも!

その翌日、わたしは一人、映画館のシートに座っていた。見てもいない映画に悪態をつく自分が、急に恥ずかしくなったのだ。

カップルやオタクの間で身を縮めるようにしながら、さあ、どんな悪口を言おうかと舌舐めずりしながら、「君の名は。」を楽しんだ。

=2016年10月4日掲載=



この映画目当ての観客で、平日のシネコンは大盛況